

燈 光



航路標識基数表

(単位：基)

種 類	令和2年度末
灯 台	3,125
灯 標	456
灯 浮 標	1,168
導 灯	44
指 向 灯	17
照 射 灯	136
立 標	110
浮 標	28
無線方位信号所	15
A I S 信号所	20
船舶通航信号所	27
潮流信号所	7
合 計	5,153

東日本大震災で被災した航路標識が全基復旧！

第二管区海上保安本部交通部 企画課・整備課

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災から今年で10年目を迎えました。この震災により、青森県から福島県の太平洋側に設置されていた当管区所管標識129基が被災し、倒壊・傾斜するなどの被害を受けました。

当本部では、急ぎこれら被災標識を復旧してきたところであり、震災10年目を目前にした2020（令和2）年10月20日、すべての復旧が完了しました。（被災標識のうち4基は港湾形態の変化に伴い廃止）

（船舶交通の安全を守るため、

「復光」に全力を注いだ10年間の軌跡）

『3月11日』、誰もが予想もしていなかった、あの未曾有の大災害は発生しました。通常、航路標識の被害状況調査はその航路標識を管理する海上保安部が行いますが、地震・津波の影響により保安部庁舎ごと被災したため、車両や資機材が使用不能となったり、人員

の確保すら困難な状況でした。このため、本部や日本海側の保安部職員も派遣し対応しましたが、それでもなお解消されず、調査には相当の時間を要するものでした。そんな中、本庁や他管区から多大なる派遣職員の協力があり、速やかに被害調査にあたることができました。

調査にあたった職員たちは、津波の爪痕やがれきが残る太平洋沿岸の道路を、時には内陸を何度も迂回しながら、通行可能な道路を見つけ出し被災した地域を駆け回りました。余震が続く中、いつ倒壊してもおかしくないような航路標識に、「仮の灯火だけでも！航行する船舶に灯りを！」との一心で、調査や応急復旧作業にあたりました。最終的に調査した結果、被害状況は次のとおりでした。「消灯」47基、「倒壊」46基、「傾斜」9基、「移動」22基、「流出」2基、「欠射」1基、「その他」2基、合計129基です。これは当時の管内太平洋側の航路標識251基のうち、約半数にあたります。

被災した航路標識の惨状を目の当たりに逃げ出したくなるような気持ちを抑え、一刻も早く復旧させる。そこから職員たちの長い戦いは始まりました。

◆津波と火災に耐えた番所根灯標

震災から1か月後の4月16日、宮城県気仙沼市大島瀬戸にある番所根灯標に向かった職員はこう呟きました。「どこから手を付けたらいいのだろうか…。」当時気仙沼市では津波でタンクから流出した油に引火して海上火災が発生。海面はあたり一面に漂う油で真っ黒になり、焦げたにおいが立ち込めていました。

灯標の外壁は焦げて黒ずみ、流れてきたロープや漁網が絡みつき、上部にある灯器等の設備は根こそぎ津波の被害を受け、併設する照射灯（鉄造のハウス）も原型がわからないほどに変形していました。そんな中でも番所根灯



海上火災により焼け焦げた灯標

標は崩れることなくその場で耐えていました。職員は決死の思いで灯標に乗り移り、ひしゃげた踊場手すりにロープで仮の灯火を括り付けました。「必ず直すから、もう少し耐えてくれ。」そう言い残し、職員は復旧のための図面を引きました。そして、翌2012（平成24）年6月、新しいLED灯器等を設置し、外壁のタイルを張替え、番所根灯標は復旧しました。被災後、1年3か月と早い段階で元の姿に戻ったことは、地元業者の協力があってこそでした。

◆倒壊寸前！灯し続けた光！陸前江島灯台

必死に耐えていた航路標識は番所根灯標だけではありません。宮城県牡鹿郡女川町の沖に浮かぶ「江島」の頂上に建つ陸前江島灯台は、外壁に大きな亀裂が多数発生し、いまにも倒壊しそうな状態でした。しかし、そんな中でも灯台は光を灯し続け、絶えることない余



地震により亀裂発生！

震に耐えながら、沖行く船を見守っていたのです。その被災してもなお、倒れることなく立ち続ける姿は、連日の調査・復旧作業に疲労困憊していた職員を勇気づけました。

灯台を再建するにあたり、資機材を運ぶための道路が被災していたこと、コンクリートなどの資機材や工事に携わる技能者（左官、型枠大工、鉄筋など）が著しく不足していたため、コンクリート造での構造をあきらめ、FRP製の灯台へ工法を変更しました。この工法では、複数のFRP製パネルを人力で組み立てて建設する工法であり、海上保安庁では初めて沿岸灯台に採用し、2012（平成24）年7月に復旧しました。

FRP製パネルは、工場で作するため現場工事期間の短縮が図れるとともに、軽量であるため人力での運搬・組立が可能でした。また、現場作業にあたる技能者の縮減を図ることができます。港湾や漁港、道路、住宅など



FRP製パネルの組立

被災した施設の災害復旧工事が膨大に発注される中で、の航路標識の復旧には、工事期間の短縮や技能者不足に対応するための様々な工夫を行いました。

◆海保初！デザイン公募灯台 大槌港灯台

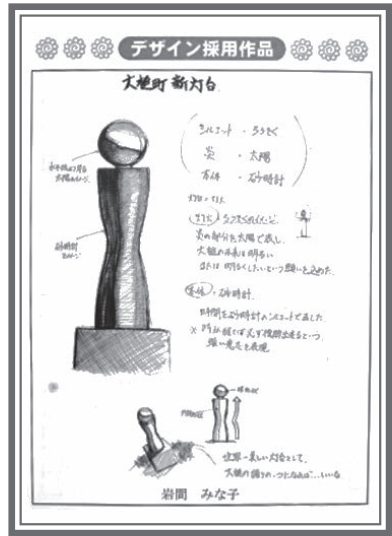
大槌港灯台は、岩手県上閉伊郡大槌町の蓬萊島にあり、この蓬萊島はNHKの人形劇「ひよっこりひよたん島」のモデルとなった島との謂われがあります。この灯台は津波により灯台の上部が倒壊しました。

灯台の復旧にあたり、「復興のシンボル」として末永く町民に親しまれる灯台になるよう、地元大槌町民からデザインを募集したところ、266点もの応募があり、復興にかける熱い思いが伝わってきました。

採用されたデザインは、ろうそくをモチーフに、炎の部分となる



津波により灯台上部が倒壊



採用されたデザイン

灯台上部の球体は太陽を表し「大槌の未来を明るくしたい」という願いが、灯塔は砂時計を表し「時が経てば必ず復興できる」という強い意志が込められています。デザイン画には「世界一美しい灯台として、大槌の誇りの一つとなれば…いいな」とメッセージが添えられていました。

震災から1年9か月後の2012（平成24）年12月13日、復旧式典を執り行い、大槌港灯台をデザインした町民の方の手により点灯ボタンが押され、再び蓬莱島に明かりが灯されました。

海上保安庁初のデザインの公募による復旧工事を担当した職員は、デザインしていただいた方の理想に叶

う設計ができるか、現場工事が問題なく施工できるかなど、頭を悩ませたといえます。無事に工事が完了したときは苦労も忘れ、「いい仕事をした!」という達成感と、地元大槌町民に喜んでもらえたことによる「やりがい」を感じたとのことでした。

皆に笑顔をもたらし、町民の希望が詰まった大槌港灯台は今も大槌町のシンボルとして蓬莱島で港に出入りする船を見守り続けています。

◆100番目の復旧!陸前長崎港長崎防波堤灯台

陸前長崎港長崎防波堤灯台は、宮城県気仙沼市の大島にある小田ノ浜海水浴場から望むことが出来る防波堤の先端に建つ灯台です。震災からしばらくの間は、被災した港の復旧工事が盛んに行われ、鉄筋コンクリート造の灯台を製作する場所が確保できなかったため、構造を鋼製で設計し、100キロ以上離れた宮城



デザイン化され復旧した灯台



灯台の銘板と復旧プレート



灯塔吊込み状況

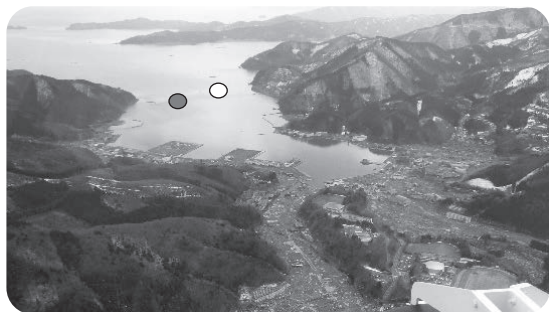
県塩釜市の工場で製作のうえ気仙沼まで陸送し、作業船で海上運搬し防波堤上に据え付ける工法を採用しました。震災から4年4か月経った2015(平成27)年7月、「復旧100基目」の灯台として生まれ変わりました。

◆気が休まらなかった海上長距離運搬を経て…女川港北、南防波堤灯台

宮城県牡鹿郡女川町にある女川港北防波堤灯台及び女川港南防波堤灯台は、女川港の入口の防波堤上にありましたが、津波により防波堤ごと倒壊しました。

防波堤の復旧工が進み、灯台の復旧工事に取り掛かりましたが、通常、防波堤灯台を建設する場合、灯台の製作は建設する港の岸壁で製作し、製作した灯台を作業船に積み込み、防波堤先端まで海上運搬して設置する流れで施工します。しかし、女川港のように岸壁自体が被災し災害復旧工事が実施されていた状況では、岸壁を使用することはできませんでした。このため、近傍の港まで使用できる岸壁が無いか調査を行いました。使用できる岸壁が無かったため、宮城県塩釜市で灯台を製作しました。

塩釜市で製作した2基の灯台は、海上ルートで80キロメートル以上離れた女川港まで作業船で運搬しましたが、ベテランの職員ですら経験したことのない長距離運搬のため、常に気象海象の予報の確認を行うなど、



津波により灯台は防波堤ごと倒壊



地元小学生に揮毫頂いた銘板



海上運搬される2基の灯台

気が休まることはありませんでした。新しい赤色と白色の2つの灯台が同時に女川港の南北の防波堤上に設置された光景は、「やっと女川港の玄関に灯りが戻った!」という達成感と安堵の気持ちになったといえます。

灯台の正面には、地元小学生に灯台の名称を揮毫^{きごう}して頂いた銘板が取り付けられるとともに、女川町と連携して開催した復旧式典にて、改めて地元へ愛されている灯台であることが確認でき、これからも、末永く町と歴史を刻み、愛されることを祈っております。

◆度重なる入札不調に悩まされ：

港湾の復興工事とともに順調に進んできているように見える航路標識の復旧ですが、震災後の数年間は、航路標識の復旧工事を公告するも入札参加者がなく約半数が不調でした。東北地方の建設業者は多忙を極め、入札参加可能業者の調査を行うも、応札者がいないということもしばしば。さらに近年では、他の震災復旧・復興関連工事の長期化、全国的に沸いた東京オリ・パラ景気による建設工事ラッシュの煽りを受け、工事に必要な作業船や配置できる技術者が不足した状態が続き、2018（平成30）年度までに復旧を予定していた岩手県上閉伊郡大槌町にある吉里吉里港東第二防波堤灯台や宮城県本吉郡南三陸町にある歌津埼南方灯台は、工事への入札参加業者がなかなか現れず度重なる入札不調により工事契約をすることすらできない状況が続いていました。

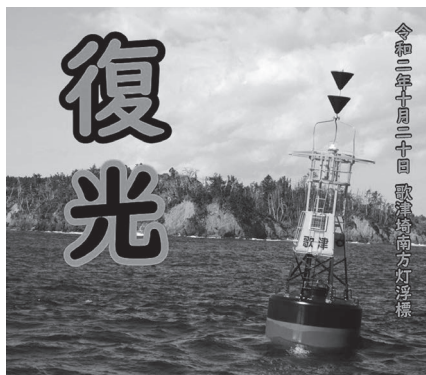
復旧工事担当職員は、入札公告の拡大（隣接管区、東北地方整備局、建設新聞社等へ依頼）や入札参加者の見直し（隣接管区へ拡大）により応札者を募るも、入札不調は解消されず、その度に、工事仕様書を変更したり、工事費積算を幾度もやり直す等した職員の苦労は、「やった者にしか分からない!」といえます。

◆最後の「復光」へ！歌津埼南方灯浮標

入札不調に悩まされながらも、いち早い東北の復興のために下を向くことなく努力してきた職員たちの甲斐あって、2020（令和2）年10月20日、被災航路標識最後となる歌津埼南方灯浮標が復旧しました。

この歌津埼南方灯浮標は、被災前は基礎が海底に定着している灯標でしたが、津波により基礎が海底（岩盤）から剥離し、正規の位置から移動する被害を受けました。本復旧までの間は仮復旧として灯浮標を設置し、震災前と同様、灯標による本復旧を計画しましたが、度重なる入札不調を受け、灯標での本復旧は困難となったため、地元漁協の方々と調整し、当初の機能を変えず灯浮標による復旧を図ることとしました。

復旧工事においては、現場海域が年間を通じて波浪条件が非常に厳しく、難工事になると覚悟して



いましたが、灯浮標設置当日は快晴、波の状況も穏やかで、スムーズに復旧工事を終了させることが出来ました。これは、職員たちの最後の復光にかける熱い思いが成功に導いてくれたものなのかもしれません。

◆全基復旧を終えて

被災した当時は、復旧までに何十年かかるのだろうと予想もつきませんでした。そんな中で、港の災害復旧工事が急ピッチで進められ、港を出入りする船が少しずつ戻ってきた時、当庁もいち早く海に灯りを取り戻させ、地元の復興の後押しをしなければという使命感に駆られ、ここまで突き進んできました。

本年3月11日、震災から10年という節目を迎えましたが、これを前に、全基復旧することができたことを、被災標識の復旧のために尽力した東北のみならず全国の職員並びに関係者の方々に報告させていただくとともに、これからも「復光」した灯りを守り続けるため、第二管区海上保安本部交通部職員一同、精進して参ります。

海上保安庁音楽隊動画第4弾 AKB48「会いたかった」

洲埼灯台（千葉県館山市）で撮影が行われました

千葉海上保安部交通課

皆さん、海上保安庁音楽隊をご存知でしょうか。海上保安庁音楽隊は、音楽演奏を通じて国民の皆様と親交を深め、海上保安庁の活動に対するご理解をいただくとともに、海上保安

庁職員の士気の高揚を図ることを目的として昭和63年に発足し、国家的行事での奏楽、海上保安庁の式典での演奏のほか、海に関するイベントなどでの演奏を通じて海上保安庁のPR活動を行っています。

しかしながら、現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、演



奏会が開催出来ない情勢にあります。そのようななか、音楽隊では「演奏会ができないからこそ、今できることをやろう!」と隊員一丸となり動画コンテンツの作成に取組んでおり、令和2年12月15日に千葉県の観光スポットである洲埼灯台（館山市）において、AKB48「会いたかった」を演奏する動画撮影が行われました。

なぜ洲埼灯台で撮影が行われたのか？ それは、動画コンテンツ第4弾は「118番の日スペシャルコンテンツ」として、海上での事件・事故の緊急通報用電話番号118



番をPRするため、同番号のイメージモデルである篠田麻里子さんとのコラボ企画として制作されており、洲埼灯台は篠田さんが主要メンバーで活躍されていたAKB48のメジャー・デビューシングル「会いたかった」のプロモーションビデオ撮影地であったことから、ゆかりの地での動画撮影となったものです。

撮影当日は天気にも恵まれ、完成した作品は、音楽隊の生き生きとした表情の素晴らしい演奏に加えて、青い空と海に映える白い洲埼灯台、そして灯台からの美しい眺望を感じ取れる内容となっています。

作品はYouTubeにアップされていますので、是非とも御覧ください。



【洲埼灯台での撮影状況】

●動画の閲覧はこちらから!!



(参考) 音楽隊動画コンテンツ(他の3作品)

第1弾 行進曲「コースト・ガード」

第2弾 行進曲「錨を上げて」

第3弾 映画「劇場版「鬼滅の刃」無限列車編」の主題歌「炎」



(第1弾)



(第2弾)



(第3弾)

※第3弾の動画は洲埼灯台が所在する館山市の海岸で撮影されています。

【灯台を見に来てください】

今回、音楽隊の撮影が行われた洲埼灯台は、東京湾越しに富士山が望めるなど

風光明媚な観光スポットとなっており、過去にもドラマのロケ地等として数多くの撮影が行なわれているほか、最近では、館山市を舞台としたアニメ「戦翼のシグルドリーヴァ」のアイキャッチ（CM前の静止画）として登場しています。

館山市は房総半島南端に位置し、温泉を楽しめるほか、一年中花が咲き、海の幸、山の幸が美味しく、様々なレジャー・体験が海でも陸でも楽しめる魅力的な観光地です。

5月と7月はダイヤモンド富士が見られる？季節で



【アイキャッチ画像】

す。新型コロナウイルス感染症が収束しましたら、是非、館山市を訪れてみてください。そして灯台にも足を延ばしてください。



「ダイヤモンド富士が見られるまち館山」（写真提供：館山市）



はじめに

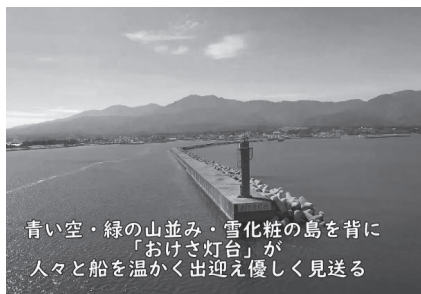
題名で「おや」と気付いた方、昭和40年代生まれです。ね。「何だろ?」と関心を持って頂いた方は、昼休み時に近くの補佐専クラスに聞いてみて下さい。(昔話で長くなるかもしれませんが、職場環境を円滑にする好材料です)

さて、九管区交通部では、灯台活用による地域観光振興支援を通じた海上交通安全思想の普及啓発を図るべく、本題名の「ドローン」を活用した企画を行いましたので、紹介させて頂きます。

【予算獲得編】

企画内容は、灯台は景観のよい岬などにあり、その地域特性を生かした映像をドローンで空撮しプロモーション動画を制作。それらを事業関係者へ無償配布し、事業関係者による公開を通して地域観光振興・地域活性化、地域連携が図られることを企画したものです。ま

「灯台のドローン空撮を核とした啓発・観光振興支援 映像の制作・無償提供」 第九管区海上保安本部	
※ 佐渡島・灯台ロマン海道(仮称) ※ ● ドローン空撮を核とした灯台プロモーション(佐佐)映像を制作 ● 佐渡島に所在する灯台を基のドローン空撮・海上保安官撮影 ● 灯台活用による地域観光振興の支援・海上交通安全思想の普及 ● 希望する観光関連事業者・団体等に無償提供 ● 佐渡市観光協会webによる映像紹介、観光施設・船内での公開	<期待される効果> ✓ 海上保安業務の啓発 ✓ 観光コンテンツの創出 ✓ 地域との連携強化 などの活用
佐渡島の灯台(動画制作) 1 佐渡島灯台 2 佐渡島灯台 3 佐渡島灯台 4 佐渡島灯台 5 佐渡島灯台 6 佐渡島灯台	<映像の概要> ■ ドローンによる空撮 ■ 灯台内部・機器等 ■ 海上保安官の点検状況 ■ 佐渡島内の観光名所等
映像の無償提供 ■ 第九管区海上保安本部への事前の届け出(管轄の海上保安部を経由) ■ 映像の全部又は一部を使用可能(無償) 映像の無許可での改編・創作は不可	<提供予定> ● 各灯台の管理官



青い空・緑の山並み・雪化粧の島を背に
「おけさ灯台」が
人々と船を温かく出迎え優しく見送る

おけさ灯台

た、新型コロナウイルス禍で灯台の一般公開等が困難な中、ドローン空撮プロモーション動画公開を通しての海上交通安全思想の普及啓発が図られる。壮大で石二鳥・三鳥、各関係者がWin-Winとなる企画内容ですが「予算がない」。そこでドローンとアルビ(新潟のサッカークラブ)と漂流物対応ブイの3件(他2件は最後に紹介)を急遽管区特別事業にエントリー。

幹部説明で熱い思いをプレゼンし、事業承認頂きまして実施する運びとなりました。

【制作編】

撮影場所は、本題名の「佐渡島」。撮影者は、「私」ではなく「丸屋空撮」様。先の重要文化財に登録された4灯台を含む全国各地の灯台をドローン空撮し、動画に見事に調和したBGMで数々の作品を制作・公開されている大の灯台ファンの協力者。

撮影は2部構成で、撮影する灯台は佐渡島をぐるりと巡る6基。第1部は、丸屋空撮様の現地でのドローン空撮が2日間。第2部は、海保（「私」）が行う灯台内部・海上保安官の点検状況の撮影が2日間。

第1部予定日の週間天気予報は、悪天候。課員から1日予定ずらしたら良いのではとアドバイスを貰ったものの「私」の予定もあり躊躇しましたが、より良い成果品を求め一日ずらしました。

それでも初日は強風でありましたが、そこは丸屋空撮様。巧みな操縦技術で明治期に建設された我が国最古の鉄造り灯台「姫埼灯台」を撮影、引き続き「沢崎鼻灯台」を撮影。2日目は好天に恵まれ、キャンプ場に併設する「関岬灯台」・映画「喜びや悲しみも幾歳月」



弾埼灯台



関岬灯台

の舞台「弾埼灯台」・佐渡の景勝地「尖閣湾」、映画「君の名は」の舞台「佐渡大埼灯台」、最後に佐渡島玄関口にある「両津港北防波堤灯台」通称「おけさ灯台」。佐渡島の魅力を満載し、地域特性を生かしたコンテンツを含み撮影。

第2部は、灯台のメンテナンス風景を撮影。「私」はモデルではなく撮影者としてゴープロを使用し、灯室内の狭い空間での臨場感のある点検風景、発光する回転レンズなどの魅力あるコンテンツ、姫埼灯台では昔の職人が手書きした木目模様などを撮影。

【公開編】

定例記者懇談会で「佐渡島・灯台ロマン海道」として発表を行いました。また、一般市民に対しては、新潟―佐渡間航路を結ぶ佐渡汽船ターミナル、新潟南イオンモール、ホテル日航新潟ほかうけ展望室での公開を行いました。この公開動画には「学生募集」+「海上保安業務紹介」動画を加えリクルート活動と海上保安思想の普及を合わせて行いました。現在も、佐渡汽船の新潟・両津ターミナルの2か所の情報モニタにおいて常時公開が行われています。また、九管区本部ホームページ、海上保安庁YouTubeでも順次公開を



沢崎鼻灯台



姫埼灯台



Befcoばかうけ展望室



佐渡汽船 新潟ターミナル

行いました。
今後、自治体・観光関連事業者等に紹介、無償提供し、それら施設における公開等幅広く普及活動を行います。

【番外編】

予算獲得編で記載した「アルビ」「漂流物対応ブイ」について、紹介します。

「アルビ」は、新潟県のサッカークラブJリーグアルビレックス新潟。そのチームキャプター「アルビくん」に救命胴衣を着させ海難防止・救命胴衣着用啓発のグッズ作成したもの。本企画、そして前述のドロ

九管本部ホームページでの公開サイトは
こちらから。



ーン企画に際し、ご協力をいただきました第六管区の
関係の皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。
「漂流物対応ブイ」は、「漂流物位置情報ブイ」と
してグローバルスター衛星通信を使用した位置情報把
握システム。新潟海上保安部が数年の調査研究をかけ
て実用化を果たしたもので、海保初導入。これにより
漂流物等による衝突海難の未然防止を図ります。これ
らの今後の活用については乞うご期待!!



缶バッチ・クリアファイル



漂流物位置情報用ブイ

資料展「東日本大震災から

10年間の塩屋埼灯台」を開催しました

とよまの灯台倶楽部

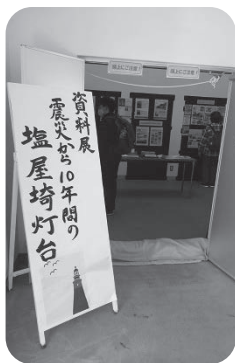
この春、東日本大震災から10年を迎えた塩屋埼灯台において、当時震度6弱の長く強い揺れによって未曾有の被害を受け、その後の大掛かりな復旧工事を経て復興した地元のシンボルの10年間の歩みを、写真、動画、体験談、地元新聞の報道記事などで紹介する資料展を3月6日から2週間にわたり開催しました。

展示の中で特に来場者の関心を集めていたのは、発

災直後、敷地内に一人でいた燈光会塩屋埼支所の小野支所長の「体験記」と支所長自身が携帯電話で撮影した「激しく揺れる灯台と倒壊していく玻璃板の様子を映した動画」でした。



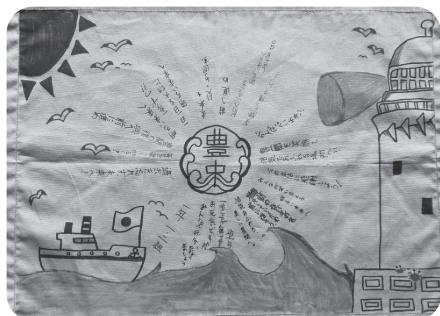
メッセージボード



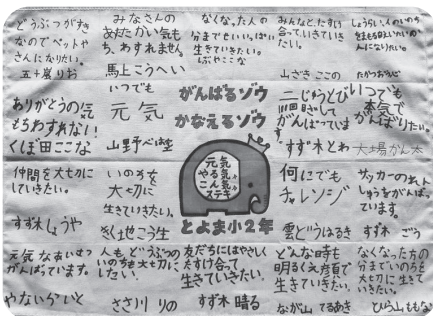
現在の耐震対策（炭素繊維による側壁強化、免振装置によるレンズ保護）についても紹介しました。



上下：展示室の様子



豊間中学校 寄せ書き



豊間小学校 寄せ書き

また、期間中、灯台の外側には、地元の豊間小学校の全児童及び豊間中学校の全生徒が各クラスで心をこめて制作してくれた寄せ書きと震災の津波の犠牲になった鈴木姫花さんが描いた灯台の絵のハンカチを繋げた2本の旗を掲げました。

そして、3月11日の「震災の日」を迎えた2本の旗は、青空のもと春風を受けて元気になびいていました。

今回の資料展には、期間中、約800名の方に来場していただきました。

小さな催しではありますが、地震・津波・



寄せ書きとハンカチを繋げた2本の旗

原発事故という3つの災害に見舞われ、現在も復興への歩みが続いている福島県沿岸部へ、塩屋埼灯台は希望の光を着実に届けていることをご紹介できたのではないかと思います。



小学生のミステリーツアー

備讃瀬戸海上交通センター

備讃瀬戸海上交通センターは、2月28日(日) 1300から1700にかけて「海と日本PROJECT」のオリジナルイベントの一環として、「海はともだちINまるがめミステリーツアー」と題した体験学習ツアーに参画しました。

このツアーは、「丸亀市ボートレース事業局(ボートレースまるがめ)」及び西日本放送(RNC)が事務局となり、香川県内小学校5、6年生含む家族単位のグループを対象とし、海を様々な視点で見ていることを写真で表現したり、体験学習することで、海への関心を高める趣旨で開催されたもので、参加者合計17グループで51名を受け入れました。

参加者には「行き先」を伝えず、ミステリーツアー形式で「指令書」を各グループに配布しその指示に従って「ボートレースまるがめ」を起点としタクシーで移動、宇多津町内会場3ヶ所(塩田復元施

設、ゴールドタワー及び当センター)をタクシーでめぐり、それぞれのミッションをクリアしていくという体験学習で、そのツアーの会場の一つとして当センターが一役担ったわけです。

コロナ禍での開催ではありませんでしたが、昨年から主催者側との綿密な打ち合わせを実施し、大成功!

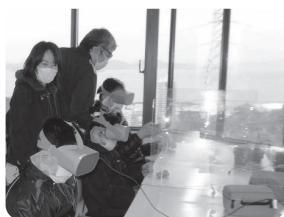
6グループを1つの班とし、これを3行程(3班)で時間を区切り運用管制官のシミュレーション体験やVR体験などを行いました。

参加した小学生は、ミステリーツアーというだけあって、ワクワクドキドキしていましたが、楽しくかつ

有意義な学習体験となったようです。

特に船との交信にすごく興味をもった子もあり、楽しい体験学習ができたようです。また、VRによる訓練を視聴したり、屋上での町並みの景色を眺めたり、最上階のレーダーアンテナも見学、レーダーの大きさに驚愕していました。

また、「管制官になりたい!」と一言ってくれた小学生や、付き添いの親御さんのほうが相当興奮し、熱心に子供に勧める場面もありました。まだコロナ禍が続く状況ですが、このような地域密着型の催しに対し、積極的な参画を継続し、未来の運用管制官を目指す若者が現れることを期待します。



VR(訓練)体験



こませ網漁ジオラマ見学



レーダーアンテナ見学



管制官シミュレーション体験

— 明治の灯台の話 (65) —

男木島灯台

灯台研究生

灯台の建設記録

男木島灯台は、瀬戸内海の島に立つ前回の中渡島灯台と同じ、石造りの灯台です。点灯開始は、明治28（1895）年12月10日で、中渡島灯台の5年前です。この時期、多くの石造灯台が造られているなかで、この2基だけは他と異なり、石の表面が滑らかに加工された「のみ切り仕上げ」のツルンとした灯台です。



写真—1 男木島灯台
(平成25年5月撮影)

明治期の灯台建設に関する詳細な規定が残されておらず、石材加工の基準は不明ですが、明治初頭のお雇い外国人が建てた石造灯台は「のみ切り仕上げ」が大半で、その後の日本人による石造灯台は、表面に凹凸があるごつごつした「コブ出し仕上げ」の灯台がほとんどです。「のみ切り仕上げ」の異例の男木島・中渡島の両灯台には、日本を代表する御影石が使用されていた事実は、前回紹介しましたが、男木島灯台の建設記録から更なる共通点が明らかになりました。

男木島灯台の建設記録は、明治28年度の逓信省の報告「逓信省第十年報」航路標識工事の報告には、明治28年5月9日起工、同年12月20日竣工と短期間で完成していた記録が見られます。

当時の香川県の新聞「香川新報」にも、男木島灯台の建設に関する記事が掲載されています。先ずは、起工日5日前の明治28年5月4日付の紙面には、建設工事の概要が次のとおり見られます。

●新設燈臺^{とうだい}の位置と経費 前号に記せし男木（前号女木^ぎは誤）の燈臺は 同島の北部なる山頂に設置する筈にて 之が経費は八千圓^{ちゅう}の予算なる由にて 工事は本年十月迄に竣工の見込なれども 材料運搬の道路より

こしらへされば
工事は着手の能
はざるを以て
本年中に竣工の
程は覚束なしと
云ふ

この2日前の
記事に、灯台は
男木島の隣の女
木島に設置され
る予定と誤記さ
れ、この記事で訂正されています。記事からは、男木
島灯台が島の北側の山頂に設置予定であったこと、当
初から年内に完成が見込まれていたことが読み取れま
す。

この20日後に2日連続して、灯台の建設資材の購入
入札広告（資料1）が掲載されます。

物品購買広告

一角石及形石五千六百四十六才餘

（才は石材の体積の単位 1才は 0.0278m³）

物品購買廣告

一角石及形石五千六百四十六才餘
此入札保証金六十三圓
一杉檜松楓ノ小角物及板類各種
此入札保証金四十六圓
一セメント六万六千斤
此入札保証金三十三圓
此契約保証金ハ受負代金ノ百分ノ十一入札者
ハ落二年以來其營業ニ從事スルモノニ限ル
所競争ニ付ハ購買ス供給望ノ者ハ來月六月七
日面入札ノ心得契約書案等熟覽ノ上全日正午
十二時限リ營業証明書及入札保証金ヲ揃ヘ全
但ハ開札ハ當日午後第一時當所ニ於テ執行
右契約ハ航路標識管理所技手山本哉三郎締結
明治廿八年五月
香川県高松市ノ北方五海里ヲ距テ島内
男木島航路標識
建築事務所

資料-1 明治28年5月24日付香川新報
(香川県立図書館蔵)

此入札保証金六十三圓
一杉檜松楓ノ小角物及板類各種
此入札保証金四十六圓
一セメント六万六千斤

（斤は重量の単位 1斤は約600g）

此入札保証金三十三圓

此契約保証金ハ受負代金ノ百分ノ十一 入札者ハ満二
年以來其營業ニ從事スルモノニ限ル所競争ニ付シ購買
ス 供給望ノ者ハ 來六月七日迄ニ男木島航路標識建
築事務所に就キ 調書圖面入札ノ心得契約書案等熟覽
ノ上 全日正午十二時限リ 營業証明書及入札保証金
ヲ添ヘ 全入札書差出スベシ

但開札ハ當日午後一時當所ニ於テ執行ス

此契約ハ航路標識管理所技手山本哉三郎締結ス

明治二十八年五月

香川県高松市ノ北方五海里ヲ距タル島内

男木島航路標識

建築事務所

冒頭の角石とは、四角に切った石材、横断面が方形
あるいは長方形の石のことですが、形石については、

今治市大島（宮窪）の古参の採石業者も、高松市の讃岐石材加工協同組合員の方々も、庵治町の民俗資料館でも分かりませんでした。

この契約の締結者である航路標識管理所技手「山本哉三郎」は、起工日の2週間前に国から香川県への出張命令が出されています、明治28年5月1日付逓信公報第1292号の叙任辞令の記録には次のとおり見られます。



資料－2 男木島灯台の位置図

航路標識管理所技手 山本哉三郎
航路標識看守 若林 銚雄
兵庫香川両県下へ出張並ニ該出張中臨機岡山県下へモ出張ヲ命ス

明治28年4月26日

この兩名が、男木島灯台の建設に従事していた事実が、4ヶ月後の香川新報に見られます。男木島灯台建設の様子を伝える同年8月28日付の記事には、兩名の名が次のとおり記されています。

●男木島燈台 逋信省にて先般来高松沖の男木島北端に燈台建築工事中なることは 去る頃の紙上に記したることありしが 同燈台は悉皆石造にして 工費は凡そ一万五千圓 目下日々百余名の工夫を役し 工事を取急ぎつつある由 而して其落成期は大概ね十一月末頃ならんとの事にて 監督技師横浜航路標識管理所詰山本哉三郎氏 會計吏 若林銚雄氏等出張し居れる趣該燈台にして彌よ落成の上は 近海の通航に非常の便利を増すことならん

この記事から、山本哉三郎は男木島灯台建設工事の監督者であったことが分かります。また、毎日100名以上もの工夫が従事し、急ぎの工事であった事実も記されています。島の北端の狭い敷地の中で、山本哉三郎監督の下、連日大勢で大賑わいの工事だったことが容易に想像されます。

この年は、日清戦争の帰還兵により持ち込まれたコレラにより、

国内全土に多くの死者が出ています。香

川県では、8

月31日付の香

川新報に「高

松のコレラは

日本一」の見出しの記事が出る程に大流行しています。

連日の紙面には、コレラ関連記事が多数見られ、それ

らは、今日のコロナ感染報道を彷彿させます。幸いに

も、男木島灯台の工事には影響せず、工事は順調で11

月2日付の紙面には次の記事が見られます。



写真－2 灯台技手 山本哉三郎
(故坂倉のぶ様 (同氏曾孫) 提供写真より)

●山本哉三郎氏 男木島航路標識建設員の同氏は 燈臺も大畧落成せしを以て 之れに関する所用にて一昨日上神したとぞ

記事は、男木島灯台の完成間近を伝える記事ですが、タイトルは監督山本哉三郎の個人名です。内容も同氏が神戸に向かったことまで記されています。この記事から、男木島灯台の完成に監督山本哉三郎が大きく関わっていたことは明白です。

男木島灯台建設に関する最後の記事は、11月14日付の次の記事です。

●男木島燈台 は彌^{いよ}落^お成したるに付^{つき}去る十日落成式を行ひたる由なるが 来る十二月一日より点灯することの事

恐らく、神戸から山本監督が戻って来て、この落成式が行われたのではないのでしょうか。式の詳細は書かれていませんが、開催の事実が記者に伝えられていること、工事には100名以上の工夫が従事していたことから、名ばかりの落成式ではなかったことが想像されます。

山本哉三郎の偉業は、これまで拙稿で何度も取り上げてきました。豊後水道中央の孤島にそびえ立つ水ノ子島灯台、狭隘な岬の突端に建てられたレンガ造日本一の初代塩屋埼灯台、設置当時海拔高日本一の経ヶ岬

灯台ほか、建設が困難な灯台や難工事を彼は次々と手掛けています。彼が建設した灯台は、それまでの灯台の記録を塗り替え、見る人を驚嘆させる型破りな灯台ばかりです。男木島灯台は、急がれた工事にも関わらず、庵治石の魅力を活かすため、敢えて手間暇かかる「のみ切り仕上げ」とした、彼の型破りな灯台の一つであるかのように愚生には感じられます。

そして、男木島灯台の翌年、彼が監督を務めた経ヶ岬灯台の工事には、もう一人の灯台技手が携わっていました。明治29年11月21日付通信公報第1642号の叙任辞令の記録は次のとおりです。

航路標識管理所技手 山本哉三郎
航路標識管理所技手 井口 経彦
京都府下経ヶ岬へ出張及出張中舞鶴へ臨機出張ヲ命ス

明治29年11月18日

中渡島灯台を建設した井口経彦です。山本哉三郎と井口経彦は、経ヶ岬灯台の工事に共に携わり、前後して「のみ切り仕上げ」の灯台を共に建設していたのです。経ヶ岬灯台の建設中、山本哉三郎から直接、男木島灯台の誕生秘話を聞かされた井口経彦が、完成の2

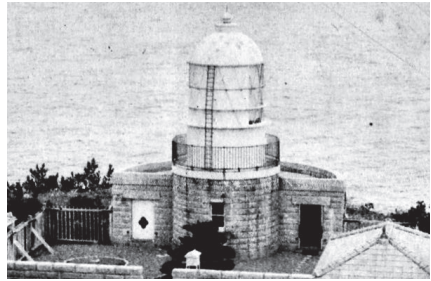
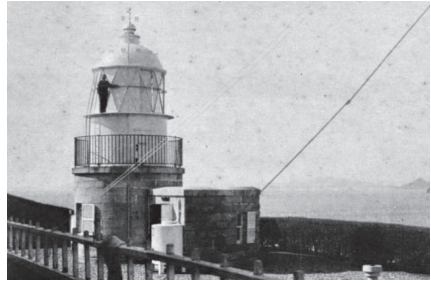
年後、中渡島灯台で大島石を使用するにあたり、山本哉三郎直伝の「のみ切り仕上げ」を、大島の石工たちと共に、敢えて挑戦していたのではないのでしょうか。男木島灯台と中渡島灯台の異例の「のみ切り仕上げ」は、日本の灯台史に名を残す灯台技手「山本哉三郎」が関与していたことが、当時の建設記録から窺い知ることができます。

無塗装の灯台

男木島灯台と中渡島灯台は共に、瀬戸内海に立つ「のみ切り仕上げ」のツルンとした石造りの灯台ですが、大きな違いがあります。中渡島灯台は、白く塗装されており、男木島灯台は塗装されていません。灯台が塗装されていないことも異例のため、男木島灯台の大きな特徴として、こちらは広く知られています。

令和の現在、無塗装の灯台は、男木島灯台のほか、山口県の角島灯台と関門海峡の六連島灯台の合計3基だけです。しかし、設置当時のブラントンの石造灯台の写真(写真3・4)を見ると、多くが無塗装です。

その後も塗装された灯台とされない灯台があったように、明治5年の最初の灯台表を見ると、塗装された石造灯台は白色石造と書かれ、無塗装の石造灯台は石



写真— 5・6 明治36年頃の釣島灯台（上）
と昭和8年の金華山灯台（下）

ブラントンの8基の灯台と男木島灯台だけです。男木島灯台が、無塗装であったことが設置当時からきわめて異例だったことが分かります。

これら9基の過去の写真を見ると、現在は塗装されている灯台も確かに塗装されていなかったことが確認できます。

ブラントンの帰国報告書「JAPAN LIGHTS」には、石造灯台については、次の記述が見られます。

石造の灯台はすべて切石^{きいしづ}積みとし、石材の大部分は花崗岩を用いた。ときには灰色の固い火成粘土岩を使

用した。しかし、この石は外気に晒^{さら}されると表面が少し劣化した。

「JAPAN LIGHTS」には、石造灯台の塗色に関する記述はありません。ただし、この記述から、ブラントンが灯台の石材を、均一に見えていなかったことは確かです。

灯台の塗色に関する当時の規定は、明治10年5月改正の燈明番示教総則書の第四章第六条「絵具塗色ノ事」に次のとおり見られます。

一 燈臺ノ外面 燈臺ノ位置ト資材ト別段ノ指図トニ
因ルベシ

当時から、真っ赤に塗られた灯船や白黒のストライプの灯台があつたように、塗色は灯台ごとに指定されていきました。また、必ず塗装しなければならぬとも書かれておらず、無塗装の灯台があつても何の不思議もありません。ただし、明治17年刊行の工部統計志燈臺之部には、灯台装置略と題した灯台各所の概要説明の中で、灯塔の色は次のとおり白色に限定されています。

燈塔

着色 燈臺^{とうだい}多クハ 丘阜^{きゅうふ}鬱林^{ふくろうりん}ノ前ニアリ 故ニ白色
ニ塗りタルモノ 青壁ニ映ジテ遠方ヨリ之ヲ認ムルニ
便ナリ由之此色ヲ用ユ 又ハ他ニ白色ニ塗りタル尋常
家屋等 甚稀^{はなはまれ}ナレバ 尋常家屋ト混視スルノ恐ナカラ
シム

この20年後の明治38年8月刊行の航路標識管理所第一
年報では、「燈塔進歩の概要」の説明の中で次のと
おり、どの灯台か判明できる色を選ぶようにとの記述
になります。

燈臺ノ着色 燈臺ハ夜間航路照輝ノ用ヲ為スノミナラ
ズ 晝間^{ひる}亦海客ノ目標タルモノナルガ故ニ 燈塔ニ各
種ノ着色ヲ施シ 其形状ト相俟^{あひま}テ 一見何レノ燈臺タル
ルカラ識別シ易カラシム 例之燈塔ノ背景タル
丘巒^{きゅうらん}又ハ 天空ノ色映ト区画シテ 判明ナラシム
ベキ着色ヲ擇^{えら}ブノ類^{たぐい}是レナリ

無塗装だった灯台は、色を塗らなくても周囲の景色
に溶け込まず、十分に識別できる灯台と、当時は見な

されていたはずです。

明治期の歴年の灯台表を見ていくと、前記のとおり
先ず8基のブラントンの灯台が無塗装の御影石造と記
されています。明治25年版から友ヶ島(当時は苦ヶ島)
灯台が、御影石造白色の表記に変わります。同灯台は、
明治23年8月に砲台新築のため、移転改築されている
ことから、この時に塗装されたようです。無塗装の灯
台は一端7基になりますが、29年版から新築された男
木島灯台が加わり、また8基になります。そして、35
年版から御影石造は石造の表記に変わり、36年版では角
島を除き、男木島も六連島も含め石造白色の表記にな
ります。37年版では、角島も石造白色とすべて統一表
記されています。しかし、実際には男木島灯台を含む
3基は、これまでに白色に塗られた形跡はありません。
金華山灯台も写真6のとおり、燈光昭和8年7月号に
「最近の金華山灯台」と題した写真に見られるように、
明治37年以降もすぐには白色に塗られなかったようで
す。各灯台の関係記録を調べましたが、金華山灯台を
含む他の無塗装だった灯台が、いつから何の理由で白
色に塗られたのかは、今回は確認できませんでした。

次々と塗装されていく中、男木島・角島・六連島の
3基の灯台が塗られずに残ったようです。なぜ、この

3基だけが残されたのか、明確な理由は分かりません。地域も年代も形状もばらばらですが、共通点はありません。3基とも「のみ切り仕上げ」の灯台です。9基の御影石造と記された灯台も、金華山灯台を除き、みな「のみ切り仕上げ」の灯台です。「のみ切り仕上げ」と「コブ出し仕上げ」を比べると、凹凸がある「コブ出し仕上げ」は汚れが付きやすく、石材が真白でも「のみ切り仕上げ」より早くに黒ずんでくるはずです。このため、定期的な塗装、清掃は必要だったはずで、前記の燈明番示教総則書には、年に1回は灯台の塗装を実施すべきとの規則も確認できます。

明治の初頭のブラントンの時代、ペンキは外国製で高価だったことから、無塗装の灯台が多ければ、財政難の時代は、経費の大きな節約になっていたはずで、ブラントンの後期の石造灯台が、塗装されなかった頃、文明開化の勢いが増す中、国内では次々と洋館が建てられていきます。お雇い外国人が帰国後、灯台が「コブ出し仕上げ」に変わった頃には、ペンキも国産化され、石造灯台は例外なく白色に塗られていったのではないのでしょうか。その明治の中期に、男木島灯台は、ブラントンの石造灯台と同じ無塗装で「のみ切り仕上げ」で建設されました。形状は異なりますが、それは

伝統ある石造灯台のスタイルの復活でした。

男木島灯台を建設した山本哉三郎は、ブラントンの時代から灯台建設に携わり、現場のたたき上げで後に航路標識管理所の筆頭技手となる優秀な灯台技手でした。異例の「のみ切り仕上げ」の「無塗装」

の男木島灯台は、当時既に周囲から一目置かれていた、技量も度胸も兼ね備えた、山本哉三郎だったからこそなしたものと愚生には強く感じられます。

灯台レンズの変遷

明治37年に発行の灯台写真集「燈臺要覧」には、設置から約8年後の男木島灯台の写真（写真7）と次の解説が見られます。

男木島燈臺

讃岐国香川郡雌雄島村（讃岐海）

明石海峡ヨリ西航スル大舶ハ必ズ 小豆島ノ南邊ヲ右



写真－7 明治36年頃の男木島灯台
（燈光会所蔵「燈臺要覧」より）

折シ讃岐海ヲ經過ス 而シテ小豆島ヨリ六島ニ至ル約四十海里ノ間ハ 暗礁起伏島嶼散點シ航路ヲ誤リ易キヲ以テ 小豆島以西ニ於テ始メテ轉針スベキ處ノ男木島ハ最モ燈臺必要ノ位置ナレバ 明治廿八年五月起工同島北端ニ於テ石造燈臺ヲ建設シ 六等回轉燈ヲ据ヘ綠光ヲ以テ「アツサ」岩及中瀬ヲ示シ 紅光ヲ以テ「ラゾノ」瀬ヲ示シ 此年十二月ヲ以テ點燈シタリ

男木島灯台の設置理由が明確に記された記録資料は、今はまだ確認できていませんが、灯台設置から9年後に発行されたこの燈臺要覽の解説には、設置理由に関わる記述が見られます。瀬戸内海を西へ向かう船上から見て、男木島は最も灯台が必要な地点だと明言されています。男木島灯台から西へ向かう先には、広島、九州そして大陸へと続く航路が開かれます。男木島灯台の設置が決められた工事開始の前年の明治27年は、日本は戦時色一色に染まっていました。その年の5月に起きた朝鮮の東学党の乱をきっかけに、日本と清国の朝鮮への支配権の争いが激化し、7月に豊島沖海戦で両国が衝突し、8月に日本が宣戦布告、日清戦争が勃発しました。9月に陸軍は平壤、11月には遼東半島を次々占領し、海軍も9月に黄海海戦に大勝し制

海権を獲得、翌年1月威海衛軍港を占領し北洋艦隊は全滅、そして4月に日清講和条約が結ばれ、台湾・遼東半島の割譲と2億両(約3億1000万円)の賠償金を日本は得ます。この期間に男木島灯台の設置が決められ、戦争終了直後に工事が開始していたのです。日清戦争の期間、広島には戦時の最高統帥機関である大本営が置かれます。戦場へ向かう多くの艦船、輸送船が、灯台がなかった男木島沖を西へと向かっていました。日清戦争直後、三国干渉の屈辱を受け、明治政府は対露戦に備え、軍備拡張、殖産興業、植民地領有政策を推し進めていきます。朝鮮、大陸へと続く航路は、その政策上の最重要航路であり、その変針点であ

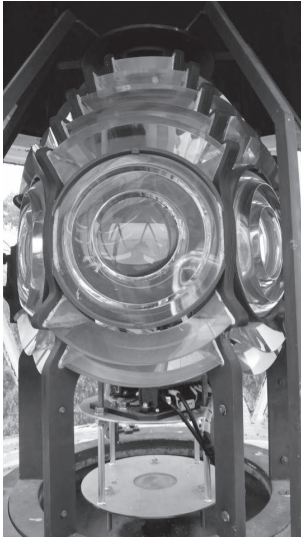


写真－8 男木島灯台の6等レンズ
(昭和33年撮影 村上敏子様提供)

った男木島灯台は、一刻も早い設置が望まれていたように、当時の世相を通して見えてきます。

男木島灯台には、前記の解説にあるとおり、6等の回転レンズ（写真8）が据え付けられました。

瀬戸内海は、狭い航路が島の間を縫うように走り、航路と島の灯台が接近しているため、強い光を出す大型の灯台はありません。明治期の瀬戸内海で最大（背の高い）灯台は、高さ4丈8尺（約14.5メートル）の二代目白洲灯台（^{しらす}関門海峡）で、男木島灯台の高さ4丈1尺（約12.4メートル）と大差はありません。レンズは男木島と同じ6等です。レンズの大きさでは、ブラントンの灯台の友ヶ島、江崎、釣島、部埼の4基が最大の3等に統一され、灯台の高さはみな3丈（約9.1メートル）以下の小型の灯台でした。これら小

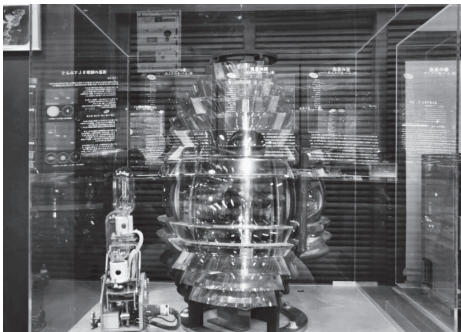


写真－9 宇品灯台の6等
レンズ（令和2年撮影）

型のレンズは、大型のレンズに比べ、移設や変更の記録が多く見られます。男木島灯台のレンズも昭和36年11月にLB灯器に変更され、6等レンズは広島島の宇品灯台に移設され、令和の現在も使用されています（写真9）。このレンズは現在、第六管区管内の灯台で、現役で使用する最古の灯台レンズです。台座には、SAUTER HARLE & CIE. PARIS 1895の刻印が見られ、辿ってきた歴史の重みを感じさせます。

灯台のレンズでは、今回は是非紹介したい移設レンズがあります。昨年、重要文化財に指定された六連島灯台の今は無き初代4等レンズです。

一緒に指定された角島、部埼、犬吠埼の各灯台には、立派なレンズが据付けられています。六連島灯台だけはレンズがありません。灯籠内には小型のLB灯器が設置されてお



写真－10 関埼灯台（六連島灯台）の
旧4等レンズ（令和2年・関崎海星館）

り、ガラーンとした室内は他の灯台に比べ物足りなさを感じます。六連島灯台から明治43年に取り外された初代4等レンズは、大正7年に大分の関崎灯台に移設され、平成21年まで使用された後、現在は同灯台そばの関崎海星館で展示されています（写真10）。重要文化財に指定された灯台の今は無きレンズが、同じ九州の地で大切に保管され、秘かに今も点灯しているのです。アクリルケースの中で光を放つレンズの台座には、歴史の証である刻印 CHANCE BROTHERS Near BIRMINGHAM 1870 の文字が確かに刻まれています。

男木島灯台の生活

燈光昭和63年11月号の灯台120周年記念特別号に、男木島灯台職員のもとに嫁いだ実原秀子様の男木島灯台での生活の様子が次のとおり見られます。

昭和三十二年の春、成人式を終えたばかりの私は、男木島灯台に勤務していた主人と結婚した。荷物をまとめようと電気アイロンを手にした時、そこに居合わせた主人がはじめてランプの生活を語りだしたのです。「風流でいいじゃない」と答えたものの、これか

らはじまる新しい生活がただならぬものと思えてきたのです。

その日は、定期船ではなく、見回り用のポンポン船に、木炭用のアイロンも一緒に男木島の灯台へと向ったのです。

いい天気だというのに私の心は曇りがちで、風光明媚な周辺の景色など目に入らなかった。灯台下の浜には新免所長と村上さんがやさしい笑顔で迎えて下さいました。

島の生活は、ランプのそれだけではなく、私の想像も及ばないことばかりです。

あくる日、主人の道案内で部落まで買物に行くことにした。やっと一人通れる山道は、行けども行けども民家らしいものは見えず、パタパタとゴム草履の音がどこまでもついてくるばかりです。主人は遅れが私の足を振り返りながら歩いてくれた。片道2キロ余りの道のりは、その後何度往き来しても遠くきびしい道でした。慣れない私はよく忘れ物をして、塩だのマツチだの所長の奥様にお世話になった。私の住む宿舍からちよつと離れた構内に井戸があつて、バケツで水を台所まで運び天水と共に適当に使い分けた。

ある雨の日、新米主婦はうかつにも浜で拾った大事

な薪を濡らしてしまい、仕方なく廊下に積み上げてあった古新聞をかかえてきて、ねじり棒を作りながらかまどでご飯を炊きはじめたのです。カルチャーシヨックのためか、涙が出てきてどうしようもないのです。

「自炊八年、ごはん炊きも洗濯も僕に任せなさい」結婚前に言った言葉はいつたい何だったのか、女房教育は最初が肝心とばかり、寝ころんで本ばかり読み、協力してくれようとしないう主人、流した涙の中にはくやし涙がいく分含まれているのです。私は両親に愚痴など言えず、どう仕様もない気持を郷里の親友に書き送ったのです。

「あなたの心境にマツチしうる男性を選びます」友から来た返事を主人はいつの間にか読み「どういう意味か」と問いつめてきたのです。私は何も言えませんでした。

そんな私を一番気遣ってくれたのが主人の母でした。洋裁を習っていた私に洋服生地を買ってくれたり、好物のするめをどつきり持たせてくれたり、会う度に優しい義母でした。主人は慣れた手つきで、小さなスタンド風のランプにするめをかざして焼いてくれたのです。

島の生活も悪いことばかりではなく、慣れるにつれ

気分も変っていった。汐の引いた磯伝いを連れだって買物に出かけることもあって、主人は、なっぱ服にゴム長靴をはき、浜には途中汐溜りがあつて、私は主人の広い背中におんぶされて渡って行くのです。帰りは浅瀬の石のかげにひそんでいる蛸を素手でつかまえ「どうだい」と言わんばかりの得意顔を見せるのです。

島はアヤメの花が咲き、一番いい顔をみせた頃、かつて噂のあった「喜びも悲しみも幾歳月」の映画の口ケ隊が灯台へやって来た。

木下恵介監督はじめ灯台守の夫婦に扮する高峰秀子、佐田啓二、娘役の有沢正子と豪華キャストにもかかわらず、大勢の見物人は静かで、撮影は順調に進んでい



写真-11 喜びも悲しみも幾歳月の口ケ隊と男木島灯台
関係職員（昭和32年5月撮影 村上敏子様提供）

った。

ある日、用務員役の俳優が何度もNGを出して、周囲はいら立ち、今に大声を出して怒鳴るはずの監督が、予想に反して静かにうつむいて目を伏せ、感情を抑えるように苦悩するその顔は、祈りに似た仕草だったのです。私もその気になった、印象深い一コマでした。

ロケ隊が引き上げてまた静かな日々に戻った頃、私はトランジスタラジオを買ってもらった。手取給八千円で、一万二千円のラジオは月賦とはいえ高い買物となった。やがて夏の高校野球が始まり、私は元氣を取り戻したが、ラジオに背を向けて何やら読んでいる主人をいぶかしがって聞いてみると、実は野球音痴だったのです。私はおかしさを堪えて、そのルールを説明した。すぐのみこんだ主人はゲームの面白さに舌を巻き、考案者をノーベル賞ものだとも言ったのです。

夏休みに入り、新免所長の宿舎には高松の下宿から帰った長女のあつ子さん、長男の徹君も加わり、四人のお子さんが揃って灯台の宿舍全体が活気づきました。

高一の徹君は、元用務員室だった物置の一隅で勉強していた。夏休み中、ランプの灯りは夜遅くまでともり、勤勉と下宿生活で親離れした落着きは大人びて

見え、娘気分の抜けない私は、その灯りを見る度に反省させられたのです。利発で明るい修君と学君も、身ごもった私の胎教の相手となり、下校時を見計らってはいつも窓越しに眺めるのでした。主人は何カ月か先に生まれてくる子を男と信じ、私もその気にさせられていたようです。

やっと好きなミシンで島の人達の洋服も縫えるようになり、一千人島民の一大行事でもある運動会の折には、親しく声をかけて下さる人もでき、遠い集落がゆつくりと私の方へ近づきはじめて来たのです。

その年の暮れ、独身の村上さんの畑では季節はずれ



写真-12 実原夫妻と新免所長親子
(男木島 昭和32年10月)

の絹さやが実り、みんなをびつくりさせた。そんな折に、待ちに待った「喜びも悲しみも幾歳月」の映画が封切となり、主人は久し振りに背広姿に、私は身重の体を和服で包み、高松へ急いだのです。満員の館内で七カ月振りにその全容を観ることができ、感動のあまり泣きました。あのロケの折に見せた木下恵介監督の苦悩する顔が、スターの後に見え隠れして、これから始まるであろう厳しい旅を想って身の引き締るおもいでした。

翌年三月、郷里で男児を出産した。主人に知らせた父は電話の向こうでバンザイの声がしたという。



写真-13 新免所長のご子息と村上氏
(男木島灯台前 昭和33年正月)

五カ月後の七月下旬、今治転勤の内示を受けた。目標の定まらぬ主人は、喜ばなかった。二人は無言で荷造りをした。真新しい水着をあつ子さんに手渡し、美しい男木の海に未練を残しながら。集約管理体制の整いつつあった今治へと旅立ったのです。

実原様の記事に添えた写真は、記事に書かれていた村上桂祐様のアルバムに収められていた写真です。村上様は、平成27年に他界され、今も今治市に健在の奥様に、昨年多くの写真を見せていただき、その時、男木島灯台での思い出話も聞かせていただきました。奥様は男木島の方で、実原様が転勤後の昭和33年の冬に村上様と結婚され、官舎に新免所長の隣りあわせて住んでいました。優秀だった徹君は東大に入学していたこと、映画のロケで佐田啓二が主人から制服を借りていたこと、構内入口に子供たちのためにお手製のブランコを作っていたこと(写真14)、高松でガスボンベを購入し灯台まで夫婦で運んだこと、それが島で最初のガス使用となり、その後プロパンガスが島で広まっていたことなど、男木島灯台での当時の知られざる事実をお伺いしました。

聖地巡礼

男木島灯台は、毎年2月の男木島水仙まつりに合わせて、高松海上保安部により、灯台の特別公開が行われています。今年は当然中止でしたが、昨年はコロナ禍前で、愚生も一般の方たちと一緒に見学させていただきました。当日は生憎の雨模様でしたが、島へ向かう朝の定期船は、ほぼ満席で、島へ着くと、ほとんどの乗船客が、水仙の香りに包まれながら、灯台へと向かっていきました。

灯台は改修工事直後で、記念額や石材の目地などが新装され、以前訪れた時より新しい印象を受けました。

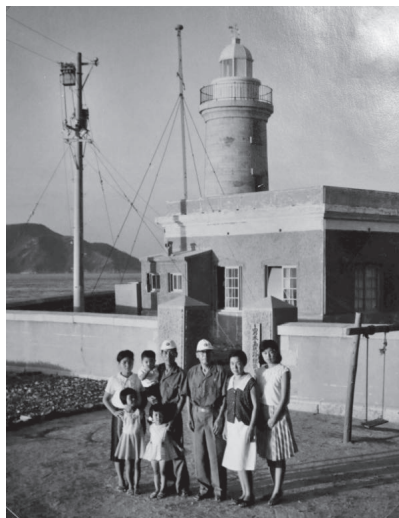


写真-14 男木島灯台職員と家族
(昭和41年夏 村上敏子様提供)

灯台に入るのは初めてで、先ず目に飛び込んできたのは、真っ白に塗られた灯塔の入口でした。外は無塗装なのに、中が塗装されているという通常とは逆の展開です。折角の庵治石なのに、なぜ塗ってしまったのか、後日、今回の工事を監督した第六管区の本部交通部整備課T技術官に問い合わせてみると、ここだけは以前から白く塗られており、今回は塗り直したただけだと、改修前の写真と合わせて回答いただきました。幸いにも灯塔の内側は塗られておらず、見上げると、石造りのらせん階段(写真15)は見事でした。石段の滑らかな仕上げは、芸術的な曲線美を描き、柔らかなフォルムに圧倒されました。

灯塔内は、木製の分銅筒が脇に設置され、表面には木目塗りが当時のまま残されていました(写真17)。



写真-15 石段の柔らかな曲線
(令和2年撮影)

それは、付属舎内の板張りの内壁や備付けの整理棚などにも残されていました。その緻密で繊細な筆遣いは、改修することは不可能な灯台の歴史遺産です。

灯塔最上部の灯室へ上る梯子は、直梯子でもいいのに、明治期の古い灯台に見られるねじれた鉄梯子でした（写真16）。汎用の組み立て式の段梯子でもなく、その高さに合わせ、一枚の鉄板をわざわざねじって作った、こだわりの鉄梯子です。

狭い灯室に入り、LB灯器の反射除去板をくぐり、回廊に出ると、冬の冷たい雨に濡れながら、灯籠下の石材に目が釘付けになりました。灯台では、ほとんど見たことのないふつくらとした丸みのある仕上げです（写真18）。知人の女性も「まるで女性のお尻のようだ」と形容した程、つい触りたくなるような柔らかな曲線



写真-16 ねじれた鉄梯子
（令和2年撮影）

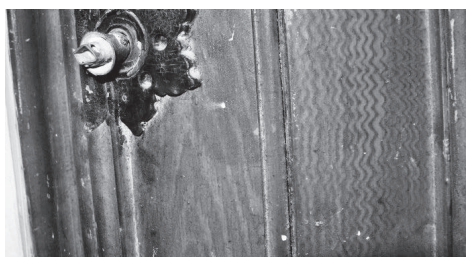


写真-17 分銅筒の木目塗り

写真-18 灯籠下の丸みのある石材

に、愚生も魅了されていたようで、何枚も同じような写真を撮っていました。中渡島灯台の大島石と同様、艶のある質感を持つ御影石（花崗岩）だからこそ、特別に加工されたのではないのでしょうか。その石材加工の頂点は、今は灯台官舎脇に移設されている日時計（写真19）に見られます。見たことのない幾何学的なデザインは、当時の石工の高度な技術を実感できます。

村上様たちが住まわれた灯台官舎は、高松市により、灯台資料館に改装され、休みの日には公開されています。元の部屋の仕切りは取り除かれ、男木島灯台と日



写真-19 幾何学的デザイン
の日時計（平成25年撮影）

本の灯台の歴史について学べる様々な展示が行われています。その展示の片隅に、訪問者の書き置きノートが置かれており、その脇に目を引く写真（写真20）が置かれていました。写真には、「サマポケ聖地巡礼2回目!! 紬に会えてよかった むぎゆぎゆぎゆぎゆ♪」と書き添えられていました。

今回の灯台訪問は、朝の乗船時から異様な雰囲気でした。船内は離島行きの船とは思えない、若者たちの熱気でむせかえるようでした。その集団は、そのまま灯台へと向かい、灯台は彼らであふれ、今まで目にしてきた灯台の特別公開とはまったく異なる光景でした。

男木島灯台をインターネットで検索すると、「サマポケ」「聖地」というワードが出てきます。ウィキペディアによれば、「サマポケ」とは、恋愛アドベンチ

ャーゲーム「Summer Pockets（サマポケッツ）」の略称と出ます。男木島、女木島、直島がモチーフとされた瀬戸内海の架空の島が舞台とされ、その中で

男木島灯台が出て来るようです。このため、ゲームマニアにとって、男木島灯台を訪ねるのは聖地巡礼と称されているようです。ゲームは2018年6月に発売され、美少女ゲーム対象2018の総合部門とシナリオ部門の1位、システム部門で7位、また、萌えゲームアワード2018の大賞とユーザー支持賞を受賞したとのこと。また、昨年の6月には第二段となる「Summer Pockets REFLECTION BLUE（サマポケッツ リフレクションブルー）」が発売されています。



写真-20 男木島灯台の書き置きノート
に残されていた写真（令和2年2月）

愚生には、全く縁遠い世界でしたが、海外からもマニアが男木島灯台へ聖地巡礼に訪れているという事実を知り、海外から彼らと呼ばれた男木島灯台は、どんな風に描かれているのか、怖いもの見たさで、迷いに迷ったあげく、この拙稿の執筆中にゲームソフトを遂に購入してしまいました。本当は、今回の拙稿の最後にゲームの感想を書きたかったのですが、送られてきたパッケージを見ただけで、正直尻込みしてしまい、この拙稿を脱稿してからゲームをやることにしました。旦那ゲームではないようですが、パッケージには、単身赴任のお父さんには刺激が強過ぎるヒロインの女の子たちが描かれていました。ゲームの楽しみは、この4人のヒロインをクリアしていくこと（？）と書かれており、果たして男木島灯台へたどり着くことが出来るのか非常に不安です。

令和3（2021）年の今年、男木島灯台は年内に有形文化財への登録が決まるとの情報が伝えられています。コロナ禍は一向に収まる気配はなく、先は見通せませんが、来年は3年に1度の瀬戸芸も開催されます。この機会に、国が文化財と認めた男木島灯台を、マニアの方のみならず、世界の多くの方々に知ってい

ただければと願うばかりです。この灯台は、その価値は十分にあります。灯台史に名を残すナンバーワンの技手を作った、こだわり抜いた灯台ですから。

（明治の灯台の話65 男木島灯台）

男木島灯台の関連資料の提供及び庵治石の調査に協力いただきました高松海上保安部交通課長小谷実様、前任の丸橋隆也様に対しまして、この場を借りて改めて心から深謝いたします。

行雲流水の出合(2) その後

(燈台守と菜園畑)

普通会員 岩 尾 亮 二



覚えておられますでしょうか、宮崎県の都城市に住まいの方が「灯台守の奮闘、戦後発展の礎」と西日本新聞に投稿しておられ、平成28年7月号の本誌に私が「行雲流水の出合」と題して紹介したことがあります。その投稿記事は、高校に進学した娘さんが宮崎県都井岬灯台官舎から高校が遠隔地のため通学が出来ず、お母さんが町中の家を間借りし、自炊して娘さんを高校に通わせておられた事を家主さんとして、灯台守家族の暮らしぶりを称賛しておられる内容でした。

そのお母さんは、かの有名な映画「喜びも悲しみも幾歳月」のもととなった手記を書かれた「田中きよ」さんです。そして、その投稿記事の中の高校に進学した娘さん本人から「行雲流水の出合」を読ませていただいたという事で私に突然便りが届いたのです。

灯台守であった父親は長崎県女島灯台、宮崎県都井岬灯台での勤務の後、三重県大王埼灯台、福島県塩屋埼灯台と転勤を重ねられ、当時高校生であった娘さん

は、塩屋埼灯台で父親と同勤されておられました御主人と知り合い結婚されます。娘さん夫婦は、灯台守家族として秋田県入道埼灯台へ転勤、新たな灯台守家族の誕生です。その後御主人へ母校である国立熊本電波高校から教師への依頼があり教育者として再出発し熊本に根をおろされた由。そして、そして、数十年を経た今、御親族の導きの下、燈光誌の「行雲流水の出合」を読まれ私への便りとなった次第です。

加えてびつくりすることに、お住まいは熊本で働いている私の長男の家から歩いて行ける距離でした。その後、私と娘さんとは訪問してのお付き合いとなり更なる行雲流水の出合となりました。

関門海峡での仕事を最後に退職した私は、郷里熊本県八代市に根をおろし先祖の残した山林、畑での山仕事、畑仕事、そして地域ボランティアの日々です。畑で作った自家野菜を手土産に訪問し、明るく元気に、加えて旧知の間柄のような雰囲気で迎えていただきました。これも明治、大正、昭和と歴史的に培われた灯台守家族としての仲間意識を超えた絆のおかげでしょう。私が野菜を差し出すと、娘さんは喜ばれ「私も野菜を作っています、熊本に来てから二〇〇坪ほどの畑地を確保し今でも野菜は作り続けています」との事。

加えて「昔の灯台での事は、あまり話したくない」の

一言もありました。しかし灯台退息所で誕生され、暮らし成長を重ねられた方の本当の気持ちは……。お茶を御馳走になりながら元国立熊本電波高校の教職員であつた御主人も加わり話は止まらず、沢山、沢山続きます。それも自然体で。灯火を守りながら大家族同様に生活する灯台守の昔日の暮らしぶり、絆を語りたい思いが勝っておられたのでしょうか。私が若い時に知り合いました幹部クラスの所長さん方の名前、旧知の方々の名前が各地の灯台での暮らしぶりの紹介の中で次々と出てきます。沢山の話をまとめますと、

- ・私達家族の兄弟は十人兄妹

- ・名付け、まさに灯台守家族の子供

- ・祖父も灯台守で父は2代目の灯台守、主人は3代目の灯台守

- ・先の大戦の終戦は北海道の日本海北部に浮かぶ、樺太の西の離島「海馬島」で迎え、その時私は小学校1年生

- ・ソビエト連邦の支配下になりましたが、父は3年間そのまま灯台守として島にとどまり、無線の仕事が続けた

- ・ロシア人、軍が入ってきてロシア語が使われ始め、

子供ながらに片言ですがロシア語を話すようになり、1年生から3年生まで小学校に行っていない

- ・子供の目線では、その3年間は食べ物にも困ることなく楽しい、楽しい生活だった

- ・父が3年目に日本へ帰り、父は女島灯台赴任（昭和23年5月に海上保安庁燈台局が発足）

- ・家族は取り敢えず郷里千葉で1年間過ごし長崎県女島灯台の官舎（退息所）のある五島福江島の玉之浦へ後を追って転居

- ・私は玉之浦で高等女学校へ入学、その後、父は宮崎県都井岬灯台へ転勤となり、私達家族も宮崎へ、私は灯台から離れた普通高校へ入学、母と一緒に高校近くの住宅を間借りして高校に通学

- ・入道埼灯台で主人に母校の国立熊本電波高校から教師への依頼があり熊本へ来て子供たちを育て現在に至る

とのこと。私に語りかける会話の中、御主人は横で微笑ながら、奥様の話を聞いておられ時々話を織り込まれます。お茶を口にする間もなく2時間近い訪問があつと言う間に終わりました。

海馬島は樺太の西海岸から西へ約80キロメートル、北海道の稚内から北へ約100キロメートル隔てた日

本海北部に浮かぶ島で伊豆諸島の三宅島、鹿児島県の与論島ぐらいの小さい島、大陸から樺太を隔てる間宮海峡への入り口と言える海域の島です。

航路標識として無線局も運用されていた灯台であったことから船舶の航行目標として重要な灯台であったことが推測できます。

海馬島は先の大戦の終戦と同時にソビエト社会主義共和国連邦領となり現在ではロシア共和国連邦領でモネロン島と呼ばれています。地勢図で調べてみますと終戦前、日本領であった時代には130所帯、750人



島の写真



樺太、海馬島地図

の住民がニシン漁、昆布漁で暮らしていたことが紹介されており、灯台守家族が、厳しい暮らしぶりであったことでしょう。

ソビエト社会主義共和国連邦政府は海上交通の確保のため灯台守の仕事を必要として灯台守家族を終戦後三年間も灯台に留まってもらい身分を保証し灯台の維持管理をするような政策を取ったことがうかがえます。戦争が終わりソビエト連邦政府の政策の下、父上は三年間も灯台の灯火を守られ家族の方々も海馬島で暮らされた事が不思議です。先の戦争後、様々な方々は、

命をかけた想像を絶する生き方であったことは映画や小説、体験談等で知識として知っていますが灯台守家族の方から生の声で耳にした時、思わず目頭が熱くなりました。話の中で、当時の生活が「楽しい、楽しい」と語られたことが強く印象に残りました。そして、偶然の巡り合わせですが私が本文の筆を取っている中、燈光誌に「樺太中知床

岬灯台最後の燈台守・降旗利勝さん」として現在ロシアにお住いの利勝さんの御子息が手記を連載されました。

実はこの手記を読ませていただき「行雲流水の出合(2)その後」を本誌に紹介しようと思いを押されてもいます。先の大戦終戦時、大陸や南方諸島からの引き上げについては様々な形で語られ記録も残されています。

日本国民としての心を保ちながら家族の命を守り灯台の光も守り親族の居る故郷への思いに安寧を思っている道を選ぶか想像を絶します。70年以上過ぎた現在でも当時大陸等に残った、また残された子供さんが今となって親族を探しに日本を訪れている様子がニュースとして報じられる事もあります。灯台守として公職にあった方でさえも本国への帰還がかなわなかったわけです。私達はその想像を絶するような筆舌に尽くしがたい歴史をどのように受け止め伝えて行けるのか……。厳しい社会情勢の中で海馬島での暮らしを「楽しい、楽しい」と拝聴した時に何となくホットする思いもありました。

話を戻します。

元々熊本県出身であった御主人は灯台守から教師と

して熊本で再出発、電波法の授業も担当されるということで法政大学法学部の通信教育を受けられ教師としての力を高められたそうです。

娘さんは転勤が常であった灯台守家族の底力を発揮され新たな熊本で自家菜園を耕しながら御主人を支え子供さんを育て暮らしておいでになったことが伺える訪問となりました。

昭和の初め戦前の暮らしぶりとして子沢山は普通であつたといえ十人兄妹には更に驚きました。ましてや転勤から転勤のある灯台守のお母さんです。十人の子供さんを育て上げてこられた、お母さんの逞しさが目に浮かびますと同時に驚きです。加えて、映画「喜びも悲しみも幾歳月」の原作を手記として残されるような生き方に感銘を受けました。

そして娘さんも、きっと気付かないうちにお母さんの生き方と同じような生き方を辿ってこられたのではないでしょう。話の内容の行間から、自家菜園を耕し御主人を支えながら子供さんを立派に育てあげてこられたことが目に浮かびました。そして子供さんは熊本随一の進学校に進まれ同高校出身で東京大学を卒業された一流企業で活躍されている方と結ばれておられるとの事。

私達世代が海上保安学校燈台科を卒業し、現場である航路標識事務所に赴いた時代、事務所の敷地内にも自家菜園の名残と習慣は残っていました。自家菜園は奥さん同士の交流の場所として子供達も一緒に遊びながら鋤をふるっていた光景が思い出されます。私の体験の範囲では、まずは北九州デッカチェーンの緑従局であった鹿児島県出水市に所在した長島デッカ航路標識事務所です。着任のあいさつ回りの流れで6坪ほどの担当菜園が示され、農家出身の家内は頑張りました。

次に長崎県の離島対馬、オメガ局運用室では上対馬航路標識事務所に加え、ロラン、デッカの事務所も立地していたことから灯台守家族の交流も多く、そして山間地に各事務所共同で広い畑を借りての自家菜園がありました。一家族あたり10坪ほどの畑が耕作可能で家内も私も子供達も家族全員で頑張りました。

その次は関門航路標識事務所の関門海峡早瀬瀬戸、壇ノ浦を前にする前田宿舎です。もともと前田宿舎用地は関門航路の各種標識灯火用のピンチガスの製造工場が立地していた場所であり、用地も広く各家庭が分け合って耕していました。また、関門航路標識事務所の管理標識で明治初期に点灯し歴史があり集約管理してから数十年にもなる関門航路の東口を示す部埼灯台、

同じく西口を示す六連島灯台の敷地には、昔日に先輩灯台守の方々が耕した菜園であったろうと思えるような段々畑風の用地が残っていて、敷地を草刈りする時に痕跡が見受けられました。特に部埼灯台では野生化した大根が菜の花を咲かせていて最近まで誰かが耕作していたことが伺えるほどでした。家内も私も山村出身であり自家菜園は当たり前、子供の時から野菜を畑から取ってきて食卓に添えるのは普通の生活習慣であつたわけであり航路標識事務所での自家菜園に何ら抵抗感、違和感はなく自然に馴染んでいきました。しかし、家族によって

私は当時の灯台官舎でのこのような生活ぶりに何ら違和感はなく自然に馴染んでいたことが思ひ起こされます。

同時に現職時は、



六連島灯台



部埼灯台（昭和20～30年当時）

樹木の無い敷地は全て燈台敷地
腕儀式の潮流信号機、通航信号所の施設が
見える周辺部は段々畑も所在

辺地での灯台守家族同士の助けあいの下、また地域の方々との交流の中で自然に育まれてきた暮らしぶりと思っていました。ところがサニアランや、航路標識業務の歴史に目を通している時に自然に目に入ったのですが、明治35年に通信省燈台局から「燈台敷地内に菜園開墾奨励」が通達されています。通信省燈台局は、灯台視察船まで備え、各灯台が適正に管理運用されているか指導監督している行政機関です。視察を受ける灯台ではペンキ塗装は勿論の事、灯器周辺の機器はきれいに磨き上げ、庭木の剪定、通路等の玉砂利は洗い

上げて出迎える話を私達が現場に赴いた頃、先輩職員から昔話として耳にしていました。そのような灯台守の仕事ぶりですから官有地を勝手に畑にするなどありえない事であり、また、許されるわけはありません。飲料水も天水に頼る生活でしたから生鮮食料を如何にするかは灯光を守る上での重要な政策です。菜園開墾奨励の通達は施策として理解できます。

明治30年代にかけては日本が「欧米に追い付け追い越せ」のキャッチフレーズと富国強兵の政策の下、海外へ進出して行った時代です。日清戦争の結果、台湾、遼東半島を統治するようになり海上交通の確保は国家として重要な課題であり統治のための航路確保が重要な施策であったわけです。そのため沢山の灯台が整備されていた時代でもあります。当時、灯台守の宿舎は官舎であるものの退息所であり、職務名は航路標識看守、国の行政機関は通信省燈台局でした。

燈台視察、補給船が各灯台を訪れ物資を補給し管理状況を視察し監督していた時代です。推測になりますが、沢山の辺地灯台や無人島の灯台への物資補給に限りが出てきて、役所流に考えると灯台守の生活基盤を確保し確実にする政策として当然の開墾奨励通達であったのではないのでしょうか。立場を変えて灯台守の目

線で見ますと、官有地での野菜作りが業務として勤務時間内でも行える仕事となり、業務としてとらえますと立派な野菜畑は評価を高くしてくれることになりました。新鮮な野菜が何時でも食卓に添えられ、加えて質素儉約に繋がるのですから皆さん元氣が出て家族全員で畑を耕し頑張られた事でしょう。灯台の安定運用の計画の下、灯台守の食料を安定確保するための菜園開墾奨励は自然とお金の節約、質素儉約の生活を導いていたのでしょうか。娘さんの沢山の話題に現職時の航路標識事務所での暮らしぶりを思い起こし懐かしさと共感を覚えながら拝聴しました。

時代を振り返ってみますと昭和も終わりに近い時代、中央紙の新聞のコラム欄に与謝野明子の短歌が紹介されていました。

このたびは犬吠埼の灯台の冷たき色に驚かずわれ

晶子

コラムの趣旨は、技術革新の下、航路標識業務全般が合理化され加えてGPSが実用化され普及していく流れの中で米国沿岸警備隊が運用するロランCの廃止が決まり日本の船舶も漁業者も影響を受けます。新聞紙上の趣旨は海上保安行政の対応、ロランCの引き継ぎ運用を問うコラムで「こんな感情はまだ可能だろう

か。」と問いながら、この句で当コラムを閉じています。「与謝野 晶子」は岬に佇む白き灯台の姿のどこかに灯台を守る私達先輩の灯台守の方々の暮らしぶりに暖かさを感じ取って「驚かずわれ」で結ばれたのでしょうか。その感じ取った暖かさに先輩灯台守の凛とした生き方を文人、歌人「与謝野 晶子」が感じ取って「暖かさ」を見て、感じたを読み取るのは身びいき過ぎるでしょうか。

娘さんのお話に感動を覚えながら聞かせてもらっているうちに自然に岬の白い灯台と立ち並ぶ灯台退息所、ロラン、デッカ、オメガ等の宿舎で集っていた家族の笑顔が目に見えられました。私達先輩諸氏の海の安全を守る一途な思いの伝統を繋ぐ海上保安行政、航路標識行政に身を置き海上保安官として、灯台守として様々な出合を導いて頂いたことが思い出されます。

ほんとに私にとっては「行雲流水の出合」となっています。

凜として語る老母の眼差しに守燈の心家族の絆

海照らし守る海原永久にして詩声遠く聴こえなりにし

のぼれる灯台参観者数

平成28年度から令和2年度の支所別過去5年間の参観者数は
次のとおりです。(燈光会事務局)

支所別・過去5カ年の参観者数推移(平成28年度～令和2年度)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
尻屋埼			10,152	9,423	9,172
入道埼	15,103	14,704	12,927	19,588	11,580
塩屋埼	30,535	30,457	29,380	28,302	17,873
犬吠埼	104,191	106,528	104,538	90,659	66,974
野島埼	76,947	76,084	62,387	52,977	38,649
観音埼	35,726	37,134	35,348	33,723	18,065
初島	30,012	26,191	24,193	20,764	7,801
御前埼	25,188	27,258	25,223	22,586	17,427
安乗埼	15,807	13,304	14,656	13,805	13,373
大王埼	47,839	41,063	32,118	29,418	23,040
潮岬	54,690	53,566	60,907	53,432	34,434
角島	101,062	101,904	98,349	92,171	45,756
出雲日御碕	63,712	66,367	59,728	65,818	34,743
都井岬	28,993	31,826	32,928	31,743	23,280
残波岬	68,240	69,833	29,172	69,393	19,539
平安名埼	47,567	36,007	45,589	40,919	15,088
計	745,612	732,226	677,595	674,721	396,794

※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年3月～5月は全灯台にて参観休止をしました。

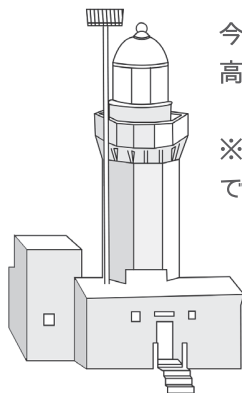
尻屋埼灯台参観業務開始延期のお知らせ

本誌3月号にて尻屋埼灯台は、4月24日から参観業務を実施する
とお伝えいたしましたが、灯台参観事業に係る準備が整わないため、
当分の間、参観業務の開始を延期することとなりました。

なお、参観開始の時期が決まり次第、あらためてホームページ等
でお知らせいたします。ご了承ください。

第18回 灯台フォーラムを オンラインで開催します！

灯台フォーラムは、海上安全における灯台の重要な役割を再認識しつつ、灯台を文化的、歴史的、美的観点から見つめ、語り合うことを目的とした灯台ファンのための勉強会です。



今年は愛媛県伊方町の町見郷土館 館長兼主任学芸員の
高嶋賢二さんに「佐田岬灯台」についてお話いただきます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン
で開催します。

開催日：2021年7月10日（土）
時 間：14時00分～15時30分ごろ
参加費：無料

○プログラム○

基調講演「佐田岬に灯台が建設されるまで」 高嶋賢二

ミニトーク＆参加者ディスカッション

「コロナ禍における灯台の楽しみ方」 平塚瑤子×不動まゆう

「zoom」というWEB会議システムを使用します。インターネットに繋がっているパソコン、タブレット端末、スマートフォンがあれば参加が可能です。（タブレット・スマホの場合は無料のアプリをダウンロードする必要があります）

参加方法や詳細については「灯台フォーラム」
で検索してください。



申し込みフォーム

来年はコロナウイルスが収束し、安全に会場での開催ができることを祈っております。

昭和三十一年五月二十五日発行(隔月一回五日発行)

「燈光」

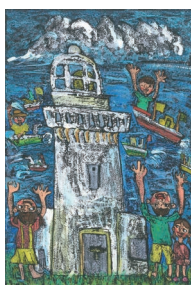
五月号 第六十六卷 第三号

募集要項 2021 /

灯台絵画コンテスト2021



♀ 2020 国土交通大臣賞



♀ 2020 海上保安庁長官賞



♀ 2020 燈光会会長賞



♀ 2020 小学生高学年金賞



♀ 2020 小学生低学年金賞



♀ 2020 中学生金賞

応募資格 全国の小学生・中学生 **応募締切** 令和3年 9月8日(水) (当日までに必着)

応募先
〒105-0003
東京都港区西新橋 1-14-9
西新橋ビル3F
公益社団法人 燈光会
TEL (03) 3501-1054
FAX (03) 3507-0727

応募方法
● 作品は、未発表のオリジナル作品に限ります。
● サイズは、A3、B3、又はハツ切・四ツ切の画用紙とします。
● 画材は、絵の具(水彩)、クレヨン、パステル等消えにくい材料とし、鉛筆や木炭等は除きます。
● 作品の裏面に次の事項を記入してください。
① 題名 ② 氏名(ふりがな) ③ 性別
④ 生年月日 ⑤ 学年 ⑥ 住所・電話番号
⑦ 学校名とその所在地・電話番号

賞
国土交通大臣賞
賞状及び副賞(図書カード) 全作品から1名
海上保安庁長官賞
賞状及び副賞(図書カード) 全作品から1名
燈光会会長賞
賞状及び副賞(図書カード) 全作品から1名
金賞
賞状及び副賞(図書カード) 各部門から1名
銀賞
賞状及び副賞(図書カード) 各部門から2名
銅賞
賞状及び副賞(図書カード) 各部門から5名

発表
小学生低学年(1年～3年)・小学生高学年(4年～6年)・中学生の各部門別に審査の上、10月中旬、入選作品を決定し通知するとともに、当会ホームページにて発表いたします。
国土交通大臣賞・海上保安庁長官賞・燈光会会長賞・各部門全賞の方は、東京において開催(11月1日(月)予定)する灯台記念日の式典に保護者同伴で招待し授賞式を行います。

- ▲ 応募上の注意事項**
- ① 応募作品の製作にあたっては、新型コロナウイルス感染症への感染防止のため、3つの密(密閉、密集及び密接)を避けるなど感染対策の基本的事項を遵守して頂くとともに、過去における灯台のある風景写真やネット上の画像等も積極的に利用するなどの工夫をお願いします。
 - ② 応募者は、応募の時点で本募集要項に記載の諸条件に同意したものとします。
 - ③ 応募された作品は、応募を撤回された場合も含めて返却いたしません。
 - ④ 応募作品の版權・使用権は、(公社)燈光会に帰属し、応募者の承諾を得ることなく発表、展示、印刷及び頒布する権利を有するものとします。
 - ⑤ 当会が実施する過去のコンテストにおいて入賞した作品及び当会以外が実施するコンテストに応募中の作品は、このコンテストに応募できません。
 - ⑥ 応募された方には、ご応募のお礼として組品(鉛筆3本セット)を進呈します。



主催 公益社団法人 燈光会

後援 海上保安庁